

## 令和5年度 家庭科実践・研究計画

部 員 ○佐々木 絵理子

研究テーマ  
**よりよい生活を創り出すために、学んだ知識と技能を用いて自ら実践しようとする子どもを育む学び**

### 1 研究テーマについて

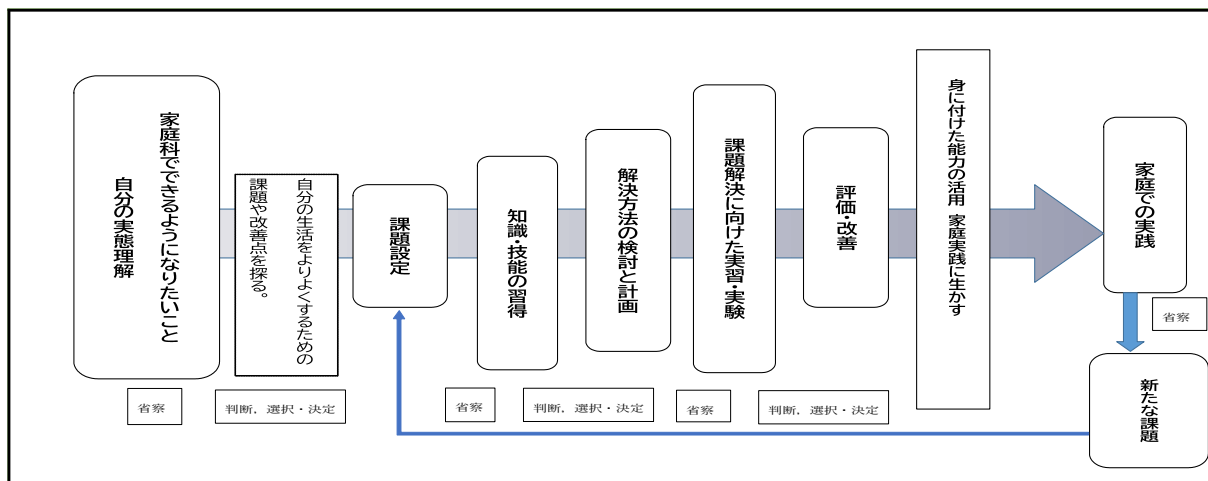
自分の生活を知り、課題に向けての解決方法を考え、学んだ知識と技能を用いて自分の生活をよりよくするための最適解を判断し、実践しようとする姿を目指し、本研究テーマを設定した。

1年次は、被服実験等の体験的な活動を通して、個々の考えの根拠となる視点としての「学びのものさし」を共有することで、客観的に事象を捉え、自分の考えの根拠を表す指標とする姿が見られた。しかしながら、多様な生活環境や個人の感覚の違いをそのまま考えに反映させて、そのまま結論付ける姿も見られた。

こうした課題を踏まえ、学習によって得た結果を比較・検討し、学習内容の一般化を図り、そこから自分なりの考えをもつことができる授業展開を目指し、実践を進めていくこととした。まずは自分の生活を見つめることで課題を見いだす。そして課題解決に向けて方策を考え、体験的・協働的な学びを通して、自分と友達の生活や考えの中に類似点や相違点、新たな価値を発見する。この発見が「学びのものさし」の更新といえる。そして、生活における最適解は何かを判断し、自分の生活をよりよくするための方法を選択・決定できる力と、身に付けた知識や技能を活用して実践しようとする態度を養うことのできる授業展開に取り組んでいく。

#### 家庭科で目指す自律した子どもの姿

- ・生活をよりよく工夫するために、日常生活の中から課題を設定し、解決方法を考え、活動を評価・改善しながら、実践しようとする姿。
- ・生活事象を科学的に見つめ、日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を積極的に身に付けようとする姿。



図：家庭科における自律した学習者の学びのプロセス

### 2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

次の学びや家庭での実践につながる、自分の生活を見つめ直すための手立て

- 必要な「学びのものさし」を更新するために、協働的な学びを通して得られた結果や考えの類似点や相違点を比較・検討する省察場面を位置付ける。
- 一般化に向けた比較・検討に生かすために、体験的な活動の中で生まれる新たな気づきや考えを、実習の映像やホワイトボードへの記録を用いた振り返りなどにより可視化する。